2002

（平成14年）

理事長 三原　英人

1月
- 第1回定時総会・例会「人間力と経営力」（本町会館）
- 京都会議

2月
- みどりフェスティバル「タイム君開封式」
- 笑いの文化づくり第39回チャリティー松山公演の特別協賛
- 例会「『めざせ心のバリアフリー』今、私達に何ができる!?」（コミュニティセンター）
- ★教育改革フォーラム21　第1回勉強会

3月
- 例会「クイズゴミオネア［～分別できますか?分別ありますか?ファイナルアンサー～］」（コミュニティセンター）
- ★天守閣こども会議・まつやま昔話めぐり

4月
- まつやま春まつり・大名武者行列　しろした時代風物詩
- わかつばきファンド受給者証授与式
- ★教育改革フォーラム21　第2回勉強会
- 公式訪問例会「語り合う『まちづくり』個々の気づきから!」（松山全日空ホテル）
- 日本JCじゃがいもクラブ第31回西日本地区大会（エリエールゴルフクラブ）

5月
- 愛媛ブロックスポーツ交流大会（八幡浜）
- 例会　新入会員入会式・正会員証授与式・「人間力開発セミナー"自己を知る大切さ"」（コミュニティセンター）
- 第21回全国城下町シンポジウム島原大会

6月
- 第15回わんぱく相撲まつやま場所
- 第32回愛媛ブロック会員大会（法皇）
- 四国地区フォーラム（吉野川・美馬）
- 家族大例会（ふたみシーサイド公園）
- ★教育改革フォーラム21　第3回勉強会
- ★あいあいプレキャンプ

7月
- 例会「俳句甲子園が　な・く・な・る!?」（本町会館）
- サマーコンファレンス

8月
- ★松山JC創立50周年記念式典・懇親会（県民文化会館）
- 第5回俳句甲子園
- 第1回臨時総会・例会「教育現場からのメッセージ（考えよう公教育と家庭教育）」（コミュニティセンター）
- ★エコロジーわんぱくキャンプ
- ★教育改革フォーラム21　メインフォーラム

9月
- 例会「やるぞな!2003年度四国地区フォーラム」（コミュニティーセンター）
- 第19回まつやま市民シンポジウム
- 第51回日本JC全国会員大会（旭川）

10月
- 例会「人間力開発セミナー"積極的な自分をめざす"」（コミュニティセンター）
- GSDF・YEG・JC親睦ソフトボール大会

11月
- 第2回定時総会・例会「俳句甲子園バンザイ!!」「松山ライトアップ事業（光とあかりと城）」（コミュニティセンター）

12月
- 例会「卒業式」・送別懇親会（東京第一ホテル松山）
- 平成14年度松山ライトアップ事業

★印は50周年記念事業です。

▲第1回定時総会・1月例会

▲▶笑いの文化づくり 第39回チャリティー松山公演

▲3月例会

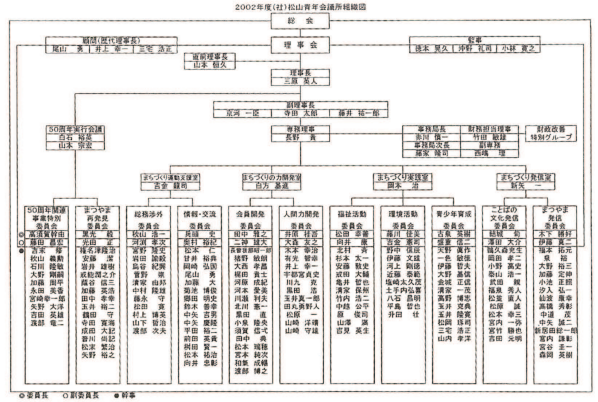
▲みどりフェスティバル「タイム君開封式」

2002年　松山市の動き

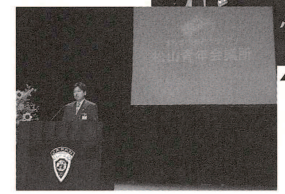
1月 「松山城400年祭」開幕
7月 まつやま Re・再来館オープン
　 プロ野球オールスターゲーム開催

歴史を担い未来を拓く青年として、共に新しい一歩を「感謝」「新歩」「共創」

▲2002年度 日本JCじゃがいもクラブ 第31回西日本地区大会



▲家族大例会



▲◀2002年度地区フォーラム
第4回俳句甲子園　地区賞グランプリ獲得

▲第51回 全国会員大会（旭川）
2002年度　日本青年会議所アワード大賞「会頭特別賞」受賞

▲4月公式訪問例会

社団法人松山青年会議所2002年度理事長所信

社団法人松山青年会議所
三原　英人

歴史を担い未来を拓く青年として、共に新しい一歩を

「感謝」「新歩」「共創」

○今、日本は、まつやまは、我々は

明るく希望に溢れるはずであった新世紀の日本は、なかなか好転しない経済をはじめとして政治、行政、環境、教育、福祉などのいずれの分野においても多くの課題を抱えて閉塞感を感じたままスタートしました。そして、その根本には、社会システムだけでなく、社会を形成する人々の「精神」や「モラル」の問題も大きいといわれています。

また、世界の政情も様々な不安材料をかかえており、国際社会における「日本」という「くに」のあり方も問われています。我々の世代だけでなく多くの人が、この「くに」の将来に対して不安を感じているのではないでしょうか。

しかし、一方では、現状に変革をもとめた明るいダイナミックな動きも現れています。

戦後長く固定化されていた歴史的、社会的価値観の見直し、経済システムや企業のあり方の再構築、政治におけるリーダーの選出方法やリーダーシップの取り方、様々な市民運動の広がり、市町村合併と地域主権のあり方、 スポーツ選手に代表される若者のグローバルな活躍等々。

まさに今、「社会」も「ヒしも、 様々なエネルギーがその進むべき方向を求めて入り乱れている「混沌とした状況」から旅立 とうしています。

一方わがまち「まつやま」の状況はどうでしょうか。

松山市は「みんなでつくろう、 みんなの松山」 をスローガンに「日本一のまちづくり」「21 世紀型行政の構築」に取組み数々の具 体的なアクションを起こしています。その結果、 行政に携わる人 たちの意識改革やまちづくりへの市民参加も大きく前進し、 両者 が一体となって大きく飛躍しようとしているようです。

それでは今、わが㈳松山青年会議所自身は、何を思い何を行なっているのでしょうか？時代に合った、いや、時代に先駆けた「変革の能動者」として「明るい豊かなまち」をつくる具体的行動を起こしているでしょうか？成果を上げているでしょうか？そもそも、 我々の役割とは何なのでしょうか？

2001 年度には、㈳松山青年会議所の中長期的な「まつやま」への思いと運動の方向性が「2010 年まつやま まちづくりビジョン」として 8 つの分野において作成され、具体的な行動計画が明らかにされました。今後は、それを実践し、検証し、継続的に改善する時がきました。すなわち、自ら汗をかき、行動し、まちづくりを実践し、己を磨き、その輪を広げていくこと（＝奉仕・修練・友情の原点）

を見つめ直す時がきています。

○歴史を担う者として

2002 年に我々㈳松山青年会議所は、 創立 50 周年という節目をむかえます。

昭和 27 年(1952 年)の「設立の趣意」と「目的」に込められた「志」を再確認し、 50 年の歴史を築いてこられた先輩方々をはじめ、これまで我々の運動を御理解いただき支えていただいた、多くの市民の方々、ネットワークを結んだ関係者、関係団体、他 LOM、日本 JC 等に対する「感謝」の気持ちを表現する時がきました。質素に謙虚にしかし深い感謝の気持ちを表現する、 共に喜びを分かち合える 50 周年が、今の松山青年会議所に相応しいのではないでしょうか。

歴史を再認識すると共に、未来に向かって「我々と我々の子供達が安心して活き活きと暮らすまつやま」を目指して新しい一歩を踏み出す時、歴史を担いつくる時も来ています。我々は、子供達に何を遺してやるのでしょうか。我々が住む「まつやま」をどんなまちにしようとしているのでしょうか。その為に何を行なおうとしているのでしょうか。(情報は、 福祉は、環境は、教育は、文化は、観光は、地域コミュニティーは、産業は、郷土への誇りは)それぞれの分野において明確になったビジョンを実現する為 にもう一度、心を原点に戻し、 協力者とのパートナーシップを大切にして共に汗をかき、 共に歩み創る一歩を踏み出しましょう。

○自分と JC を見つめ直して

育年会議所運動に参加し「奉仕、修練、友情」の三信条を経験する機会に積極的に参加すれば、 非常に多くのモノを得ることができます。しかし、費やすモノも関わり度合いに応じて大きくなります。 同じお金と時間を投資して機会を得ながら、 成果として自らが手にするものは、 人によって何倍もの差が有ります。また、一度に沢山手にして役立つモノもあれば、 今後何十年も活かせる財産もあります。やはり、投資と成果の決算は、自分の行動と心構え次第なのです。

自分の人生に最も大きな影響を与えるモノ、それは自分自身の資質です。自分の今の姿は、過去の自分自身の思いと行動が創った結果です。自ら目指す自分になる為には、主体的意志を持って活動し、人間的に成長し、自信と行動力と見識を身に付ける機会を活かさねばなりません。修練、勉強する場所として、青年会議所を多いに活用すべきではないでしょうか。また、 意義ある場所としての雰囲気や環境づくりも必要であり、その為にはメンバー個々の成長する姿が重要です。そんな青年会議所には自ずとヒトは集ってきます。

そして、成長した自分は、社会に、会社に、家庭に大きな成果をもたらし続けるでしょう。「青年会議所は人生大学である。」とある先輩はいわれています。我が人生に大いなるプラスをもたらす行年会議所活動を共に有意義なものに！

○よりよい成果をもとめる体制を

順風とは言えない経済環境の中で、我々は、なぜ青年会議所活動を行なっているのでしょう。「このまち」への思い。友情。夢。義務。皆のいろいろな思いが、交錯しながら、其々のメンバーが貴重な時間を活動に費やしています。其れゆえ運営上の時間の有効活用と成果の確認は必ず実

践せねばならぬことだと思います。

2000 年代、(扮日本青年会議所は「個と公の調和のとれた、活力と知力あふれる成熟した社会の創造」を目指して運動を展開しています。我々もその意義を理解し、「志」を同じにし、我々の「まちづくりビジョン」の実現を目指して行動を開始しますが、実現過程において重要なのは、「手続き」「議論」だけではなく、「具体的成果」だと思います。「成果を出す為、行動を起こす為に、最も効率的な手続きとは何か。」を求めて運営は行なわれるべきでしょう。ここ数年間の改善への試みを更に進める必要性を感じます。ルールに縛られるのではなく、成果を出す為のルールの運用と改善が望まれています。

各事業は厳選され、明確にされた目的と手段によって時間、知力、気力、行動力を集中して計画・実行され、その成果を検証されるべきだと思います。

○まちづくりの展開について

2002 年度は、よりよい成果を得るために以下の 4 つの目的を中心に据え、組織をつくり事業展開することが効果的だと考えます。また、実践においては、社会人として、企業人として、家庭人として、JC メンバーとしてバランスのとれた行動と感覚があらためて問われています。

① 松山青年会議所の50年の歴史総括と感謝の表現
② 会員の「まちづくりの力」の向上
③ パートナーと連携したまちづくり事業の実践と発信
④ 中期的活動の方向性の表明と実行

・「まちづくりビジョン」を表明し実践方法を検討することや、「広域のまちづくり」については、全 LOM に深く関わる課題として理事長以下スタッフが主体で対応していきます。
・創立 50 周年に関連する事業は LOM 全体の力を結集して作り上げることが大切ですが、全体を総合コントロールし主体となって活動するとともに、内外の多くの方々と共に喜びを分かち合える機械を幾度か設けて感謝の意を表現します。そして共に未来のまつやまを語る機会をつくります。
・対外的な日頃の活動をバックアップしつつ内部調整を行う総務・渉外機能は重要です。加えて、我々の活動情報の発信や他団体のコミュニケーションを密にする事は、運動の根本を支える事と考えます。
・我々の仲間を増やす為に一層努力し既存のルールを改めると共に、青年経済人として経営的資質を高め、また、人間的魅力を高めて「まちづくりを推進する力」(＝人間力)を養うことも大変重要なことです。「ひとづくり」は「まちづくり」の基本です。
・環境、福祉、青少年教育という分野で今まで実践してきた活動を既存のネットワークを大いに生かし、他団体との連携を深めて、更に展開する体制も必要です。今後は特に、「子供たちの未来」という観点での活動が重要ではないでしょうか。
・俳句文化の全国発信を「俳句甲子園」開催というカタチで成功させつつある今、俳句を含む「ことばの文化」を日々の生活や教育において普及させる事も「まつやま」らしいまちづくり活動として現

状をふまえて研究･検討されるべきでしょう。また俳句に限らず新たな視点で郷土の歴史文化や観光資源（まつり）にも目を向け、発信することも必要だと思います。
・松山城築城400年の記念事業が数多く催される2002年は、各イベントとの関わりにおいて、我々の既存事業の今後を再考する機会になります。共に「祝い」「創る」という考え方で共催、参画、協力という方法と役割分担を再検討したいと思います。
・活動の根本を支える財務の改善は重要な課題だと思います。先輩方々が築かれた資産を有効活用すると共に、中長期的視点で現状の課題と解決策を明確にしたいと思います。

○今、思うこと

歴史は、人の「意志」によって創られてきました。どんなに大きな創造物も、どんなに大きな破壊も、どんなに大きな変革も、偉大な芸術も、革新的な技術も人間の「明確な目的」と「強い意志」と「行動」によって生み出されてきたのです。そして、その「意志」を同じくする者が相集い、力を合わせる時、歴史が動きます。
今の「わがまち」を築いてきたのも先人の「意志」の結果であり、我々の子供達が暮らす「わがまち」を築くのも我々の「意志」なのです。

このまちの歴史を担い、未来を拓く青年として、次なる50年にむけて今、「強い意志」をもって、更にもう一歩踏み出す時がきています。
私にも。あなたにも。